

ゆう・あい

第 50 号

発行所：静岡県人権・地域改善推進会
〒420-0865
静岡市葵区東草深町二〇一七
電話（〇五）二六〇一五四六
発行人：天野 一
行日：令和五年九月三〇日

ぼくはカサンブク大将

人権啓発読本県内小学校へ寄贈

当会では人権意識を高めるためのきっかけになればと、人権啓発読本「ぼくはカサンブク大将」を作成し、県内500小学校に寄贈した。

新型コロナウイルスの感染拡大以降、「利他」という考え方が国内外で注目されている。深刻な危機を乗り越えるために、自分本位な行動や競い合いよりも他者と支え合う道を模索するのは必然ともいえる。今の社会で「他者のために生きる」とは



浜松市に寄贈、感謝状を授与された。

どういうことなのか、子どもたちに分かりやすく伝えるために読本の作成を企画した。

そこには二つの理由がある。第一に本会の前身である静岡県同和会の会長若荷完二さんが常々、「利他の精神」を説かれていたこと、そしてその若荷さんから絶大な信頼を得ていたのが、当時、浜松市の副市長で作家の宮本武彦（ペンネーム澄志田瓢策）さんだったからだ。物語は山里の小学校に通う6年生の5人組のお話。卒業を前に、それぞれ自分の大切な人のために何か思い出になるようなことをしてみようと計画し、5人が協力して実践していく中で思いやりの心を育てていく様子を綴るもの。

最近、子どもたちと接して気づいたのは、学力と経済力で峻別され、弱さや苦しみをどう分かち合うか、能力を自分以外の人のためにどう用いるのかという機会が少なくなっているのだ



ハートフルコンサート 2023開催

6月4日、静岡市駿河区グラシップ中ホールで、ハートフルコンサート2023を開催した。この日の演奏曲には全て人権のエピソードが付け加えられた。例えばオーブニングの「マーチ希望の光」は、東日本大震災の直後に、少しずつ前を向いて歩き始めた被災地を応援する行進曲として書き下ろされたということ。また、「ポケッ

はないかということだ。5人組

がそれぞれ自分の大切な人のために一生懸命頑張る。その頑張りが人や地域との「つながり」を生んでいく。子どもたちには無限の可能性がある。他者への尊重や思いやりの精神が社会全体の人権を守っていくということとを啓発していきたい。

トモンスターズカーレット・バ イオレットのメインテーマ」ではポケモンには1000匹を超える種類があり、みんな姿が異なり、使える技も違うこと。それはユニバーサルデザインや、LGBTQ、ダイバーシティなどにつながっていく。

ユニバーサルデザインは、バリアフリーとして特別扱いされることに疑問を抱いた車椅子生活者が、はじめから誰もが使いやすいデザインを作れば良い、と考えたことから広まっていったという。引き続きこのコンサートの人権、自分らしく、誰もが暮らしやすい社会を考えるきっかけにしていきたい。

第26回総会5月に静岡市内で開催

静岡県人権・地域改善推進会第26回総会が、5月21日、静岡市葵区鷹匠のむくせい会館で開催された。冒頭、天野一会長は挨拶で、「コロナ禍は感染リスク低減や予防策の恩恵を受ける

人がいる一方で、低所得者、女性、高齢者、障害や難病を持つ方々に打撃をもたらし、格差を顕在化させた。同和問題の解決に取り組むことは、社会のさまざまな人権問題の解決に向けて取り組むことにつながる」と述べた。また、25年の歴史を振り返り、同和問題の解決に尽力されてきた先人に敬意を表するとともに、これからの会のあり方についても活発な意見をいただきたいと結んだ。

被差別部落地名掲載 二番も違憲判断

全国の被差別部落の地名をまとめた書籍の出版を計画し、掲載情報をウェブサイトに公開した川崎市出版社に対し、部落解放同盟などが出版の禁止などを求めていた裁判で、2審の東京高等裁判所は「差別を受けない権利の侵害にあたる」と判断して1審よりも広い範囲で訴えを認め、書籍やサイト上で地名などの情報を一切公表しないよう命じた。

しかし、今年度になってから県内の同和地区を撮影した動画の投稿が続いている。本会は県の委託事業として、匿名掲示板などを対象に、インターネット上の悪質な書き込みを監視する「インターネットパトロール」事業に取り組んでいるが、「表

現の自由との兼ね合いもあり、被害が軽減されているとはいえないのが実情であり、新たな対応が迫られていると強く感じている。

沖縄民謡とエイサー 演奏

9月23日、浜松市江西会館にて敬老会が開催され、「沖縄民謡とエイサー演奏」が披露された。太鼓の迫力に驚き、指笛の大きな音に感動し、いつまでも聞いていたかったと好評だった。こうした高揚感をともなう感激を沖縄の言葉では「チムドンドン」と表現するという。なぜ、見る者の魂をこんなにも震わせるのか。それは太鼓の音や踊りの勇壮さにあるかもしれない。しかし、心を打つ本当の理由は演奏者がふるさとに誇りを持ち、魂をこめて踊るところにあるのではないだろうか。



